

2020/10/16

(うと Q 世話し 「本当のニューノーマル」を迎えるには、その位はしないと、ダメでしょう)

「同調圧力軍団」

我が国には、国や会社や各種団体の側のからより、むしろ国民の側自身の方に、そう呼ぶしかない、遥かに強固で巨大な「塊」のようなものが存在しているような気が最近してきました。

最近というのは、勿論今回のコロナ禍での経験からです。

曰く

「自粛警察」とか「マスク警察」とか「SNS 警察」とか呼ばれる、例の行為などです。

ここまでの文章で、図らずも無意識に出てきた言葉「軍団」「警察」

「前に倣え」「右に倣え」「左に倣え」「前後左右全てに倣え (矛盾なき整合を取れ)」

そこから連想されるのは「足音高く歩調を合わせ」「一糸乱れぬ」「鉄の行進」

何か過去にも、現在にも、何処かで見たような映像が自然と想起されて、少し怖い気がしております。

問題は無論、それらをどうやったら止めることが出来るのか？もありますが、さらに重要なことは、いろいろな激動変化をくぐってきた我が国国民が、それにもかかわらず、この部分だけ、国民生活の細部にまで渡って、何故変わることがないのか？その理由の解明の方が、より重要な気がしております。

「横並び」という言葉があります。

「村八分」という言葉もあります。

どちらが主語でもいいのですが、例えば

「横並び、それも度を超しゃ、墓並び」

という気がしないでもないでもありません。

善意であれ、改善であれ、起業であれ、規制緩和であれ、同調隊列を乱すものは、容赦なく引きずりおろして、村八分にします。

なぜ我々にはこのような傾向が強いのか？

そしていつまでたっても、この縛りから抜け出せないのか？

一刻も早く、その正体を突き止め、「化けの皮を剥ぐ」必要性をひしひしと感じております。

目安として、このコロナ禍が終わるくらい迄には、是非とも。

我々自身が「本当のニューノーマル」を迎えるには、そのくらいはしないと、ダメでしょう。